

最終回：留学を終えて

千葉大学

関屋大雄

Hiroo Sekiya

1. まえがき

2月末に留学を終え、日本に帰国しました。時差ぼけが残る帰国直後にこの留学記を書いています。デイトン最後の冬は、気温は高めで氷点下10度を下回る日はほとんどなかったのですが、たびたびの大雪に見舞われました。ほぼ全員が車を使っていますので、大雪のたびに大学の講義はキャンセルになります。キャンセルになった分の補講はなく、講義数が減るだけのようです。キャンセルに対して、喜ぶ学生がほとんどとのこと。そこは日本と変わらないと感じました。

今回は帰国準備について、そして留学を振り返ってみたいと思います。恥ずかしいですが、留学中にあったトラブルについても書きました。留学記も今回が最終回です。あと少しだけ駄文にお付き合い頂ければと思います。



一面の雪景色。このような中を歩いて大学まで行きました。

2. 車の売却

帰国に当たり最も時間がかかり、かつ気をもむのは、車の売却です。留学中、最も高価な買い物は車であり、したがって、できるだけ高額で売却したいのが正直なと

ころです。私の場合、帰国1か月半前から車の売却へ向けていろいろな作業を始めました。

いつ、どのように売るか

まず考えなければいけないことは、いつ車を売却するかです。アメリカは車なしでは生活できない場所がほとんどです。車を高価に売却できても、早く手放した場合はレンタカーを借りる必要があり、結果的に高くつくかもしれません。私の場合、大学まで徒歩圏内だったため売れるときにいつでも売ることになりました。

売る方法は二通りです。個人相手に売買するかディーラーに買い取ってもらうかです。個人売買は高く売ることができますが、交渉に時間を取られること、常にだまされる心配がつきまとうこと、そして、売るタイミングは買い手に依存するという問題があります。ディーラーへの売却は、買取り価格は個人売買と比較してかなり低くなってしまいますが、空港で引渡しができ、帰国直前まで車を利用できる利点があります。

価格の設定

個人売買の場合、価格はあってないようなものです。当然、販売希望価格は自由に変えられますので、最初は高いところからスタートして、徐々に落としていくのがよいと思います。価格が高いとだれからも問合せがありませんが、ある価格まで落とした途端、問合せが次々にやってきました。ここで注意しなくてはならないのは、個人売買の希望売却価格には税金が含まれておらず、購入者はその金額に加え、更に税金を払わなければならないという点です。このことは忘れがちですが、重要なポイントだと思います。

車の購入の際には価格の指標として“Kerry Blue

Book” (www.kbb.com) があります。ここには Excellent, Good, Poor という三つのランクごとの標準価格が提示されます。個人売買は“Private Party Value”, ディーラーへの販売価格は“Trade-in Value”として表示されますので、これが価格交渉の基準となります。

広告を出す

購入者を見つけるためには広告を出す必要があります。個人売買のサイトとして最も有名なのは“Craigslist” (www.craigslist.org) で、無料で広告を出せます。更に“cars.com” (www.cars.com) にも広告を出しました。こちらは有料 (30 ドル) ですが、登録すると yahoo! など、複数サイトに同時に同じ広告が出るという利点があります。また、毎日どのくらいの人がアクセスしたのかが分かり、価格を変更するときの判断材料になりました。最終的に見つかった購入者は cars.com を見たと言っていましたので、ここに広告を出したのは正解でした。その他、“eBay” (www.ebay.com) なども有名です。広告には、いくつかの写真を載せることができます。通常正面、背面、車内の写真を載せることが多いようですが、私はそのほかにマイル数を示した写真を載せました。友人からのアドバイスでは、1. 電話番号を明記する、2. (フリーでない) メールアドレスを載せるとよいそうです。写真のような広告が Web に掲載されました。

問合せに対する対応と交渉

ここでの写真では価格が 17,000 ドルとなっていますが、価格を 15,900 ドルにした途端問合せが急増しました。基本的にはすべての問合せに丁寧に答えていきまし

2008 Toyota Camry LE - \$17,000 (obo) newly listed
 Contact: Hiroo (Individual Seller)
 Call: 937-594-1975 (Mobile)

Vehicle Description Kelley Blue Book Values Photos Finance & Loan Calculator Specs & Reviews Safety & Reliability

About This Camry
 Mileage: 9,000 Engine: 4 Cylinders
 Body Style: Sedan Transmission: Automatic
 Exterior Color: Silver Drivetrain: FWD
 Interior Color: Gray Doors: 4
 VIN: 4T1BE48K4B0215519 [Get a CARFAX Record Check](#)

Features: A/C, Front, Cruise Control, Power Locks, Remote Keyless Entry, Airbag, Driver, Airbag, Passenger, Anti-Lock Brakes, Fog Lights, Cassette Radio, CD Player, Power Windows

Selling Points: I bought this as a test-driving car. So this car has Toyota certified used vehicle warranty by Mar 22, 2012 (full), Sep 21, 2014 (limited) or 100,000 miles. All conditions are excellent. I made a maintenance after 5,000 miles driving.

★★★★☆ [11 consumer reviews](#) for the 2008 Camry

About the Seller
 Hiroo
 937-594-1975 (Mobile)
 Vehicle Location: Fairborn, OH

Email the Seller
 Hiroo
 937-594-1975 (Mobile)

掲載された私の販売広告 (電話番号はすでに無効です)

た。しかし、提示額で買うという人は皆無で、交渉のスタートラインを 14,000 ドル近辺に設定する人がほとんどでした。時間の無駄ですので、価格的に折り合う可能性がないと判断すれば遠慮なく断りました。

ほとんどの人が聞いてきたことは、1. マイル数、2. なぜ売りに出すのか、3. 事故歴はあるのか、4. この車は何人目の保有者か、5. タイトルはきれいか (ローンが残っていないか)、6. 保証はどうなっているのか、7. 支払い方法について、です。逆に、車を購入する際は上記のことに注意して交渉するとよいと思います。

私は約 10 人とやり取りをしました。最初はメールでやり取りを始めたとしても、最終的には電話での直接交渉が必須だと思います。私の場合、購入者と初めて電話したとき、「この人は大丈夫」と感じました。なぜなら、後から子供の声が出たからです。電話からはメールでは分からない、いろいろな情報を得ることができます。

支払い手続き

事前交渉の結果、購入価格が 15,100 ドルで折り合いが付き、試乗してもらうことになりました。聞かれたことはすべて正直に答え、特に問題なし、ということで購入してくれることになりました。

支払い方法ですが、全額を現金が最も確実、安全です。小切手の場合、個人の小切手ではだまされる可能性があるそうで、銀行が発行した (サイン主が銀行になっている) 小切手にしてもらうべき、ということでした。私の場合は、購入者がローンで購入したので、銀行で手続きが進みました。私の作業としては、銀行から小切手もらった後に、「タイトル」の裏側に譲渡に関するサインをして終わりです。この場合、銀行発行の小切手だったので安心でした。自動車保険の解約を忘れずに行い、すべての作業が終了です。まさにこの翌日からリコール問題が本格的に報道され始めました。その意味でも、最高のタイミングで、良い購入者に気持ち良く売却できたと思います。



タイトル：この裏側にサインすると所有権が移ります。

3. 帰国に際し

アパートの解約・整理

帰国のちょうど1か月前に引越しの連絡をアパート側に行いました。出国時に持ち出した小物類、古くなった洋服類はすべてこちらで処分し、荷物はスーツケース二つ+ゴルフバッグにまとめ、飛行機に持ち込むことにしました。したがって、出国時にはお願いした引越し業者は必要ありませんでした。テーブル、ベッド、テレビは、同じ研究室の学生や同じアパートの住人に購入価格の4割で譲りました。夏であれば、ガレージセールなどを開き売却する方法もあると思います。

各種解約と住所変更

帰国1週間前になり、電話、ケーブルテレビ、電力会社の解約を行いました。最後の支払い請求書、払い戻しの小切手の郵送先として日本の住所を指定します。携帯電話は2年契約だったので違約金が発生しました。しかし、海外移住の場合は特例があり、日本に移ったことを示すために、日本でのインフラ(ガス、電気、電話)の請求書を帰国後に送付すれば、解約料は免除されます。

銀行の口座については、口座を閉める、住所変更して口座を残すという選択肢があります。私は公共料金の最後の支払いが残っていること、そして、円相場が2年前より10円近く高かったこともあり、口座を残すことにしました。ただし、口座が5年間放置されると、オハイオ州に全額没収されるとのことなので、マメにこの口座を使う必要があります。



帰国直前に研究室の仲間とお別れパーティを開きました。

そのほか、郵便物に関しては、U. S. Postal Service (USPS) で郵便物転送手続きを取りました。海外への転送手続きは、事務所で手続きしなければなりません。アメリカ国内の転送であればインターネットで可能です。私は、教授の家を転送先として、何かあったら連絡をもらえるよう、お願いしました。

最後に、領事館に帰国届を出しました。手続きはインターネットで簡単にできます。以上で、帰国に関する手続きは終了です。出国時と比べるとやるべき作業量も少なく、あっという間に終わりました。

4. 研究の整理

帰国の1か月前に、研究のまとめ、今後の課題について教授と相談しました。どこまでをアメリカで論文にまとめ、どこから帰国後の作業とするか、あらかじめはっきりさせておきました。更に、今後も継続して共同研究を進めることを確認し、帰国後の研究方針を立てました。私の分野では実験が重要であるため、実験設備の関係で、帰国しても簡単にはできない研究内容もあります。あらかじめできることと、できないことをはっきりさせておいたのは良かったと思います。留学先で最後の論文を投稿したのは帰国の2週間前になります。最後の2週間は文献整理、帰国に当たっての報告資料の作成などに充てました。

帰国の際、こちらで入手した資料の持ち帰りには十分な注意を払う必要があります。こちらの大学で得た研究の資料に関しては、持ち帰りの可否をその都度確認し、問題のないものだけを持ち帰りました。アメリカの研究機関ではその成果すべてが大学の財産であるという考え方がありますので、あらぬトラブルに巻き込まれないよう、帰国の際は十分に注意した方がよいと思います。

5. 留学中のトラブル集

これまでの留学記では楽しいことばかり書いてきましたが、実はそれなりのトラブルに遭遇しました。

航空券購入トラブル

アメリカでの移動では飛行機は重要な交通手段になります。なるべく航空券を安く買いたい、と聞いたことの

ない会社から航空券を買おうとしたのですが、見事にだまし行為にあいました。

内容は、電話とメールを巧みに使い（本当に巧妙だったのですがここでは省略します）、航空券を予約した後突然高額な手数料を要求し、契約の無効を申し出ると、その手数料以上の航空券キャンセル料を請求してくるといふ手口です。電話上でいくらやり取りをしても、向こうの対応は手慣れたもの、こちらはつたない英語ということもあり、泣き寝入りを覚悟しました。ところが、向こうもだましている証拠となる小さなミスを犯し、それを突破口に私はクレジットカードの支払いを拒否しました。その後、「弁護士を立てて裁判を起しその費用（5,000ドル！）も請求する」などの圧力をかけてきましたが、断固支払い拒否の姿勢を貫きました。本当に訴えられたらどうしよう、と少し怖いところもあったのですが、結局訴えられることはありませんでした。

その後は、航空券購入に関し無理なことはせず、アメリカでの航空券購入はExpedia（www.expedia.com）を使うことにしました。

子供の病気と債権回収会社からの請求

この留学中、私は単身赴任でこちらに来ていたのですが、妻と子供が何回か遊びにやって来ました。このとき、子供が体をこわし病院に行くことになりました。

休日だったので、インターネットで救急外来を調べ、飛び込みで病院に行きました。その病院では、問診、診察、レントゲン撮影、注射、投薬とすべて担当者が異なり、完全分業制が徹底されているように感じました。子供には、飽きさせないよういろいろなサービスがあり、シールや人形などを次々に持ってきてくれました。そして、最後は病人に対してとてもいいとは思えない、着色料一杯のアイスキャンディーをくれました。

さて、支払いは保険会社に任せるのですが、半年経ったところに、突然「Collection Agency（債権回収会社）」から、郵便でお金の請求がありました。ここにも怖いことが一杯書いてありますし、それと同時に取り立ての電話もかかってきます（留守電にして出ませんでした）。保険会社に早急な対応をお願いし約1週間で解決しましたが、債権回収の督促は毎日のようにあり、ちょっとした怖さを感じました。

2度の Emergency Call

私はまだ日本で110番も119番もかけたことがありません。ところが、アメリカでは2度もEmergency Call（911番）をかけてしまいました。

ある日曜日の未明、突然浴室の天井から水が滝のように落ちてきました。バケツでそれを受けてもきりがなく、しかも収まる様子が一向にありません。休日の夜中なので、どうすればいいのかと途方に暮れアパートのマニュアルを見ると、このような場合には911番にかけられるように、とありました。電話の後、すぐにアパートの修理担当の人がやってきて、処置をしてくれました。どうやら、911番にはアパートの担当者の電話番号を把握しており、このような場合には、すぐにそちらへ連絡する体制ができています。

もう一つの場所は前回の留学記にも少し登場したヨセミテ国立公園。残雪残る時期の山奥で、トレッキングコースから大きく外れ、迷子になってしまいました。来た道を戻ろうと思っても、足跡がはっきり残っておらず、どこを行けばよいのかよく分かりません。氷点下になる夜が近づき、遭難の恐怖が襲ってきました。ここで、谷にあるホテルでは携帯電話が繋がったことを思い出しました。パニックになる直前でそのことを思い出し、まずは山頂まで登り、そこから谷側に向かって歩き、電波が入る場所を探すことにしました。しばらくすると電波が届く場所に出ることができ、911番へ。携帯電話の電池の残量を気にしながら会話をし、最終的にはレスキュー隊にヘリコプターで救出して頂きました。無線通



5月のヨセミテバレー：写真、滝の頂上右奥にかなり進んだところで迷子になりました。

信に関する知識と 911 という番号を覚えていたことで、命を守ることができました。

下山後、レスキュー隊の方たちからきつくお灸をすえられ（当たり前です）、私も猛省してホテルへ。アメリカでは、レスキューにかかる費用はすべて寄付で賄われているということで、高額請求はありませんでした。もちろん、後日ヨセミテに寄付をさせて頂きました。

入国書類が…

ナイアガラの滝に行ったときのことで。ナイアガラの滝は、滝壺近くまで船で行くというアトラクションがあります。私も滝の水にずぶぬれになりながら大興奮だったのですが、船から降りるとパスポート、入国書類一式がずぶぬれに。最も大事な書類である DS2019（1 回目の留学記を御覧下さい）の印鑑が水で落ちてしまいました。カナダからアメリカへの入国審査で当然のように問題になりました。別の場所に連れて行かれ、長時間取調べ(?)を受けました。ここでもきついお灸をすえられたことはいまでもありません。最終的には大学から再発行してもらうということで、許してもらいました。



グラント・ティトン国立公園にて。留学中出会った最も印象深い景色です。湖に山並みが綺麗に映っています。

6. 留学を振り返って

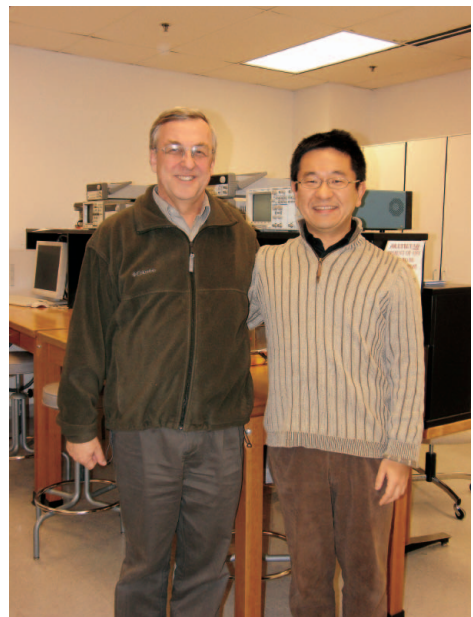
2 年間という、通常と比べても長い留学期間でしたが、終わってみると本当にあっという間でした。いろいろなことに挑戦しましたが、まだまだ時間が欲しかったというのが正直なところ。生まれて初めて日本の外で生活し、異なる文化圏に身を置き、その中で研究を進めて

いく、そのすべてが新鮮で刺激的でした。更に、アメリカの研究者、そして近い将来博士号を取得し活躍するに違いない同じ研究室の学生との交流は、この留学で得た最高の財産です。また、大学教員として、アメリカの大学の教育事情、研究事情を垣間見ることができたことも大きな経験です。

様々なスポーツ観戦や、マラソン、ゴルフなどを通じ、大学、研究室以外でも多くの人と楽しく交流することができ、いろいろな角度からアメリカを感じることができました。また、長期滞在中にしか行けないであろう、アメリカの国立公園に行き、圧倒的な大自然を楽しむこともできました。これらを通じて、私の人間としての幅が広がっているのであれば、留学の意義は更に大きなものになります。

「留学に行ってよかったか」と聞かれれば自信を持って「よかった」と答えられますし、留学を終えた今、他の人に自信を持って留学することを勧めることができます。この留学記を通じてたとえ一人でも「留学してみたい」と感じてくれるのであれば、この留学記の意味があったものと思います。この 2 年間、計 8 回にわたり、とりとめのない駄文にお付き合い頂きありがとうございました。今後、学会の場などで私を見かけることがありましたら、是非感想などをお聞かせ下さい。

最後に、この留学にあたり御迷惑をおかけした多くの関係者に感謝の意を表して留学記を終えたいと思います。



最終日、Kazimierzczuk 先生と記念撮影。本当に良い先生で、何から何までお世話になりました。ここを留学先に選んで大正解でした。